

4 「食の安全」について

(1) 食の安全に対する関心度

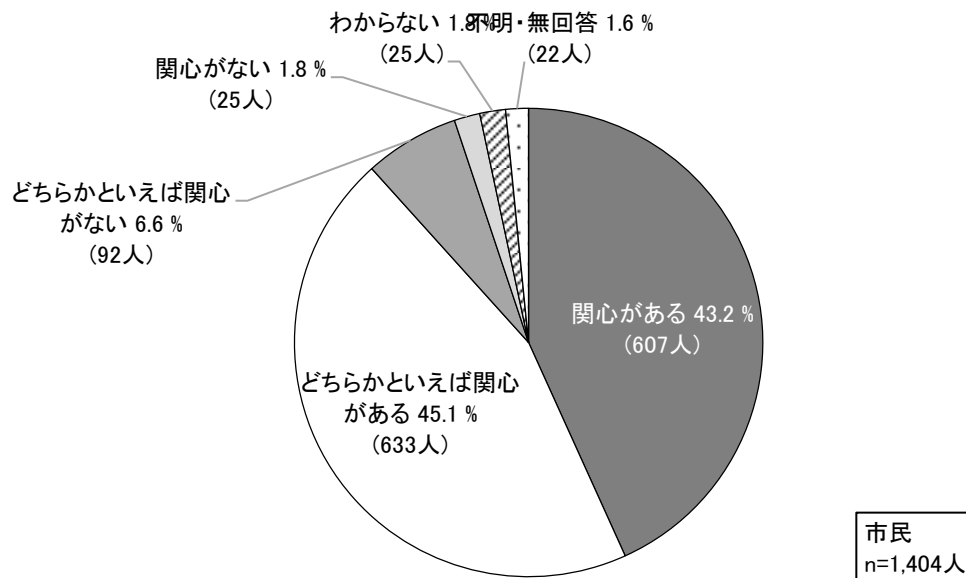
問23 あなたは、食の安全に関心がありますか。(○は1つだけ)

9割弱が食の安全に「関心がある」と回答

「関心がある」(43.2%)、「どちらかといえば関心がある」(45.1%)と回答した人を合わせた割合は9割弱(88.3%)となっている。

一方、「関心がない」(1.8%)、「どちらかといえば関心がない」(6.6%)と回答した人を合わせた割合は1割弱(8.3%)となっている。

図4.1 食の安全に対する関心度



【性別・年齢別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は、50歳代と60歳代では9割を超え、30歳代と40歳代、70歳以上も8割台となっている。

性別では、70歳以上を除いた各年代で、女性の方が「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合が高くなっている。

図 4.1-2 食の安全に対する関心度（年齢別・全体）

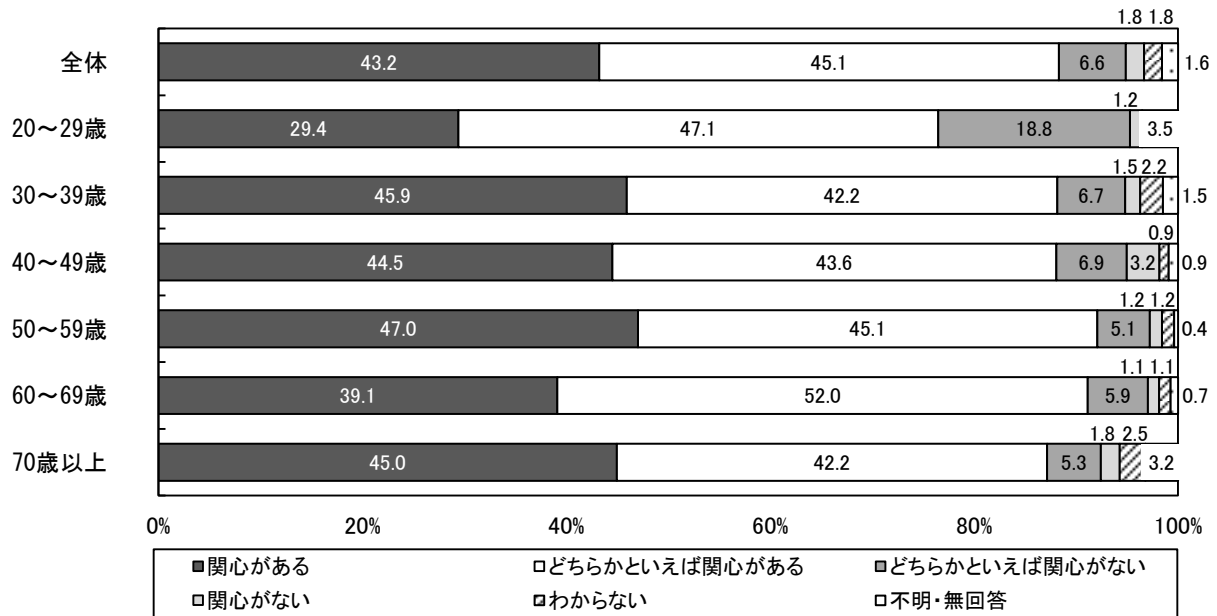
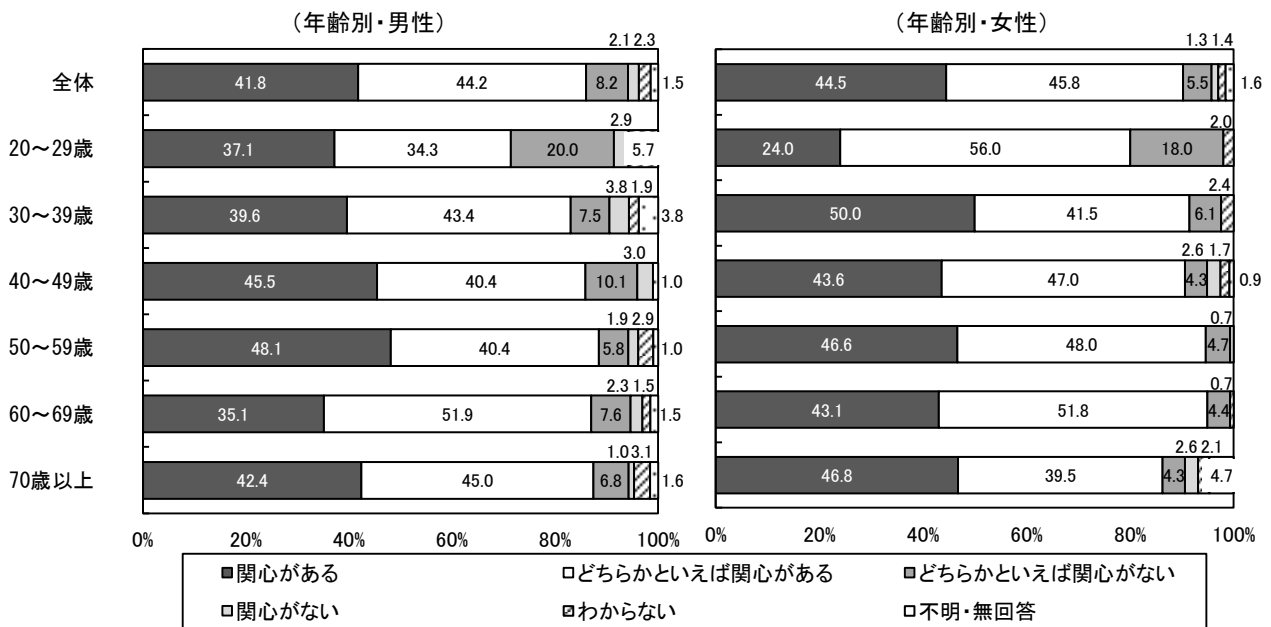


図 4.1-3 食の安全に対する関心度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

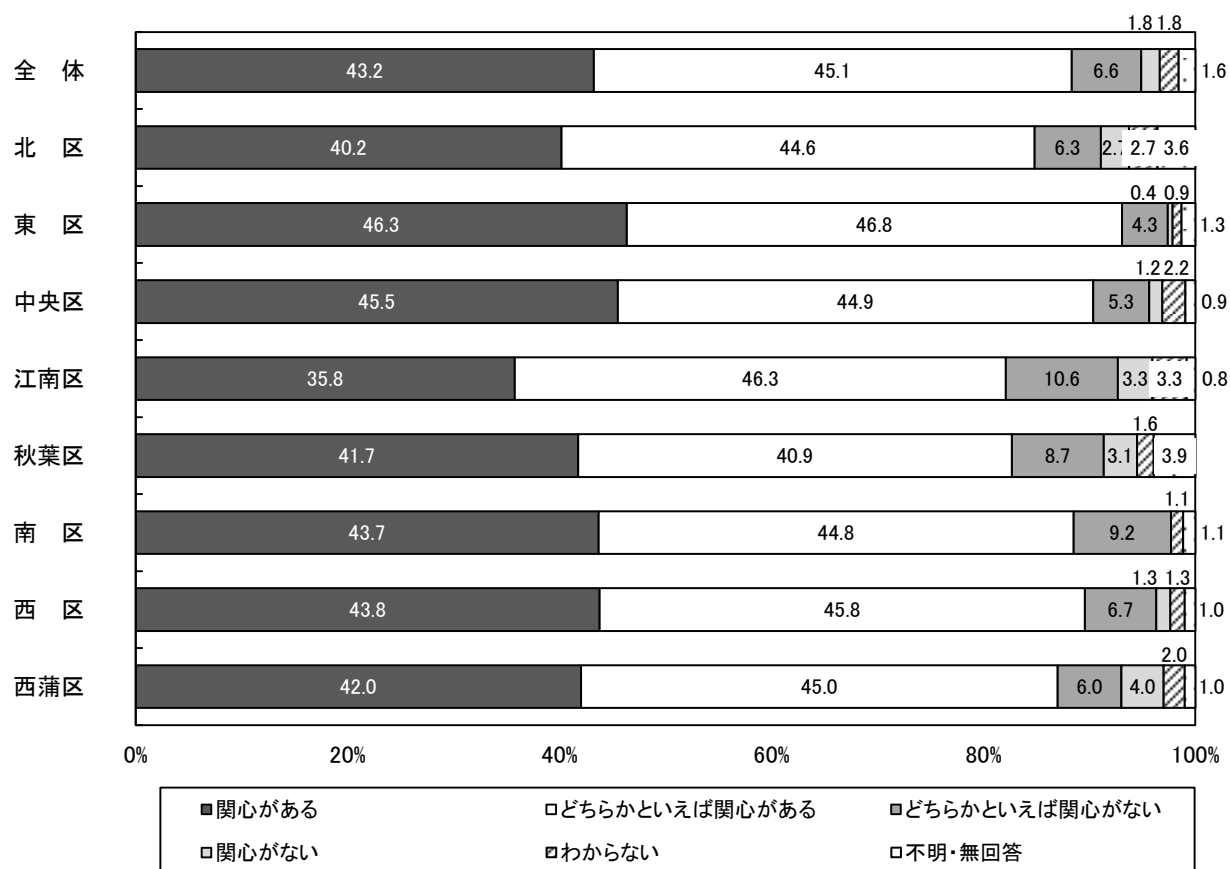
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は、東区（93.1%）で最も高く、9割を超えている。

図 4.1-4 食の安全に対する関心度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

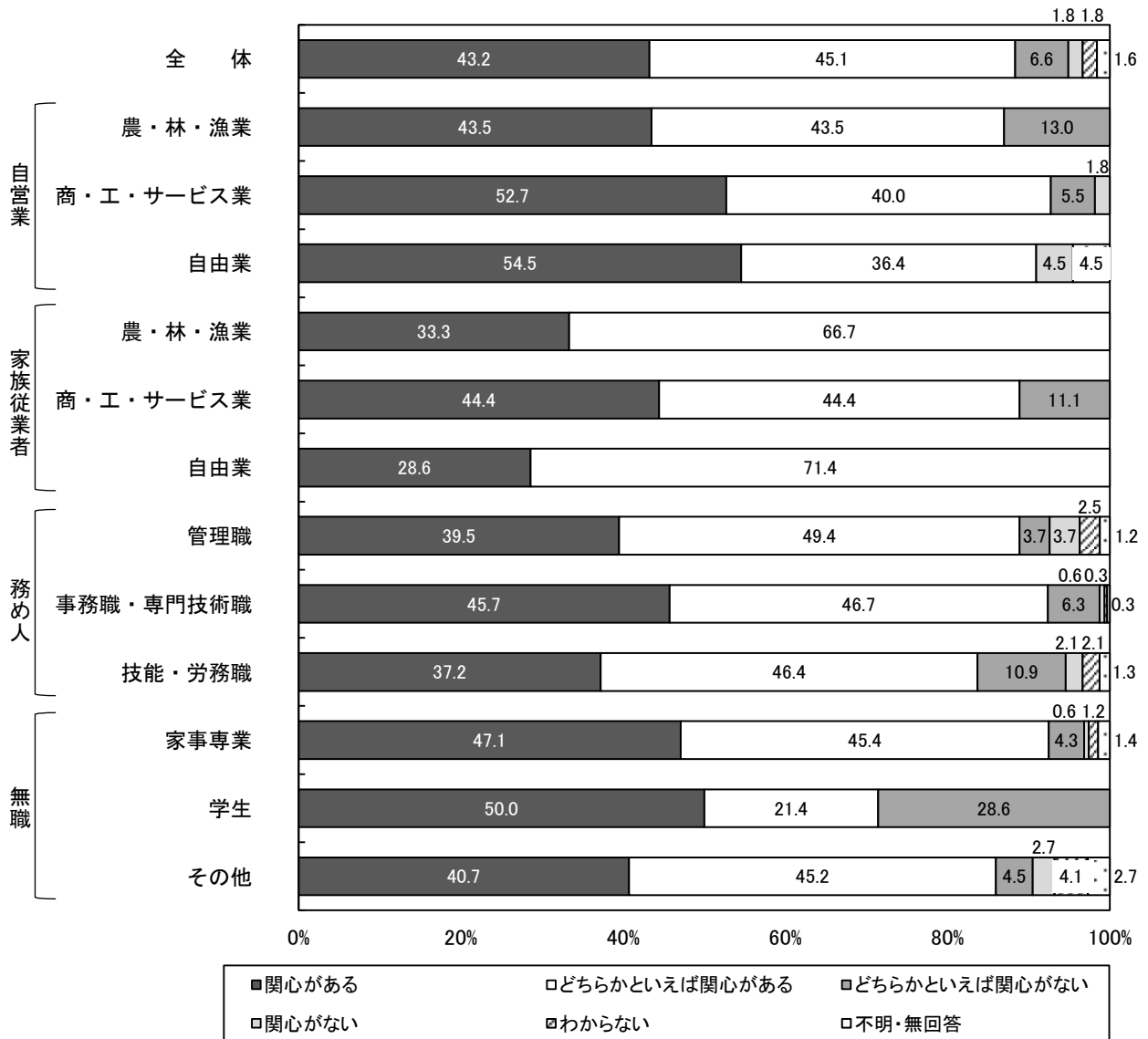
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 4.1-5 食の安全に対する関心度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

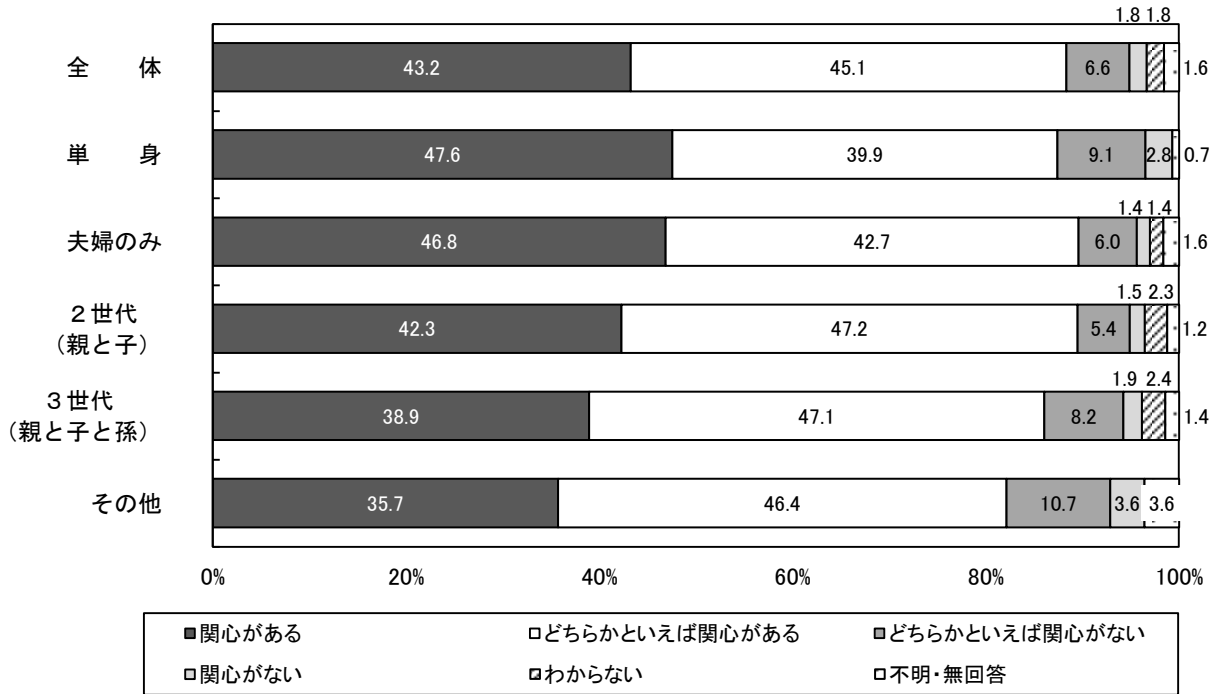
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は、夫婦のみ(89.6%)と2世代(89.5%)で高くなっている。

図 4.1-6 食の安全に対する関心度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

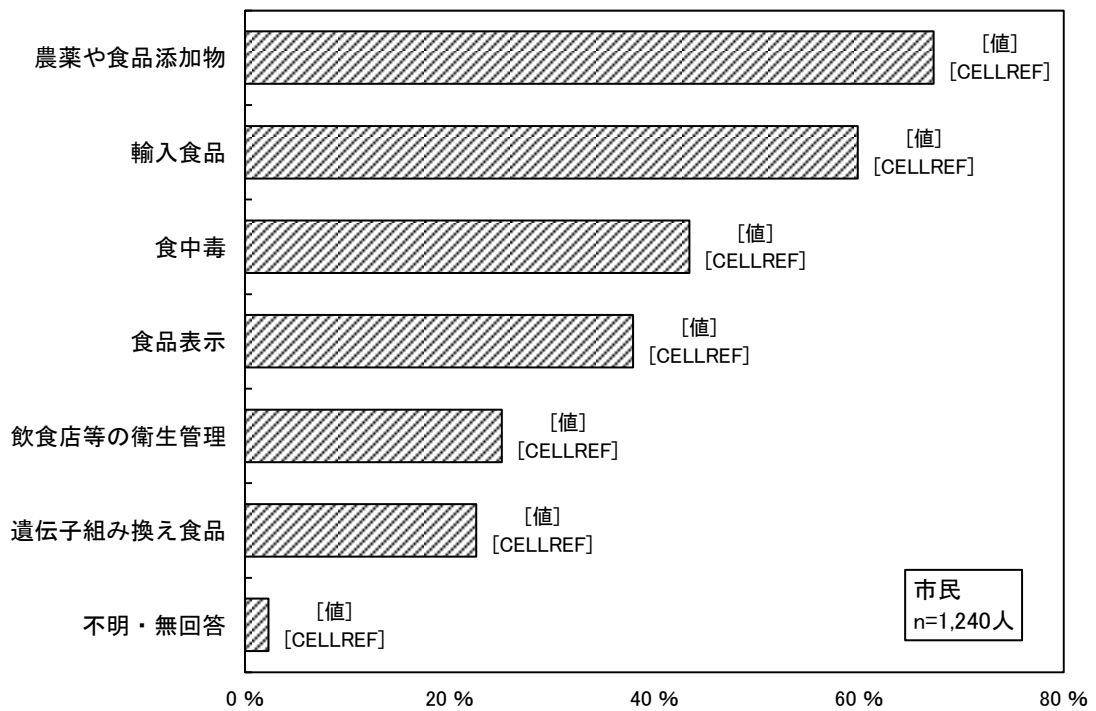
(2) 特に関心があること

問23-1 どのようなことに関心がありますか。(〇は3つまで)

7割弱が「農薬や食品添加物」と回答

特に関心があることについては、「農薬や食品添加物」(67.3%)と回答した人が最も多く、以下「輸入食品」(59.8%)、「食中毒」(43.4%)、「食品表示」(37.9%)、「飲食店等の衛生管理」(25.1%)、「遺伝子組み換え食品」(22.6%)となっている。

図4.2 特に関心があること



【性別・年齢別】

各年代とも、「農薬や食品添加物」「輸入食品」の割合が高くなっている。20歳代では「食中毒」の割合も高くなっている。

表 4.1 特に関心があること（年齢別・全体）

	対象者	農薬や食品添加物	輸入食品	食中毒	食品表示	飲食店等の衛生管理	遺伝子組み換え食品	無回答
計	1,240	67.3	59.8	43.4	37.9	25.1	22.6	2.3
20～29歳	65	60.0	32.3	56.9	30.8	41.5	10.8	1.5
30～39歳	119	63.9	51.3	48.7	29.4	38.7	26.9	2.5
40～49歳	192	70.8	57.3	47.4	28.6	35.9	24.0	0.5
50～59歳	233	67.0	61.8	45.9	39.5	27.9	22.7	3.4
60～69歳	247	68.8	66.4	40.1	43.3	15.8	25.5	0.4
70歳以上	380	67.1	62.9	38.2	41.8	16.8	20.5	3.7
年齢不明	4	50.0	75.0	25.0	50.0	25.0	25.0	0.0

対象者：人／回答：%

表 4.2 特に関心があること（年齢別・男性）

	対象者	農薬や食品添加物	輸入食品	食中毒	食品表示	飲食店等の衛生管理	遺伝子組み換え食品	無回答
計	527	61.1	58.6	46.3	36.8	26.0	22.4	1.7
20～29歳	25	60.0	28.0	56.0	24.0	36.0	20.0	4.0
30～39歳	44	54.5	45.5	61.4	31.8	38.6	25.0	2.3
40～49歳	85	65.9	51.8	48.2	29.4	40.0	20.0	1.2
50～59歳	92	62.0	60.9	43.5	38.0	30.4	21.7	3.3
60～69歳	114	63.2	63.2	43.9	37.7	19.3	26.3	0.0
70歳以上	167	58.7	65.9	43.1	42.5	16.2	21.0	1.8
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

表 4.3 特に関心があること（年齢別・女性）

	対象者	農薬や食品添加物	輸入食品	食中毒	食品表示	飲食店等の衛生管理	遺伝子組み換え食品	無回答
計	692	72.3	60.8	41.0	22.4	38.6	24.7	2.7
20～29歳	40	60.0	35.0	57.5	35.0	45.0	5.0	0.0
30～39歳	75	69.3	54.7	41.3	28.0	38.7	28.0	2.7
40～49歳	106	75.5	62.3	46.2	28.3	33.0	26.4	0.0
50～59歳	140	70.7	62.9	47.1	40.0	26.4	22.9	3.6
60～69歳	130	73.1	69.2	36.9	47.7	13.1	24.6	0.8
70歳以上	201	74.6	60.7	33.3	41.8	17.4	19.9	5.5
年齢不明	0	-	-	-	-	-	-	-

対象者：人／回答：%

(3) 食の安全に関する知識を持っている程度

問24 あなたは、食の安全に関してどの程度知識を持っていますか。(○は1つだけ)
「食の安全に関する知識」とは、次のようなものに関する知識とお考えください。

「食の安全に関する知識」の例

- ◆ 食品表示の見方について
(消費期限や賞味期限、保存料などの食品添加物、遺伝子組み換え食品、食物アレルギーなど)
- ◆ 食中毒の予防方法について
- ◆ 輸入食品について
- ◆ 健康食品について

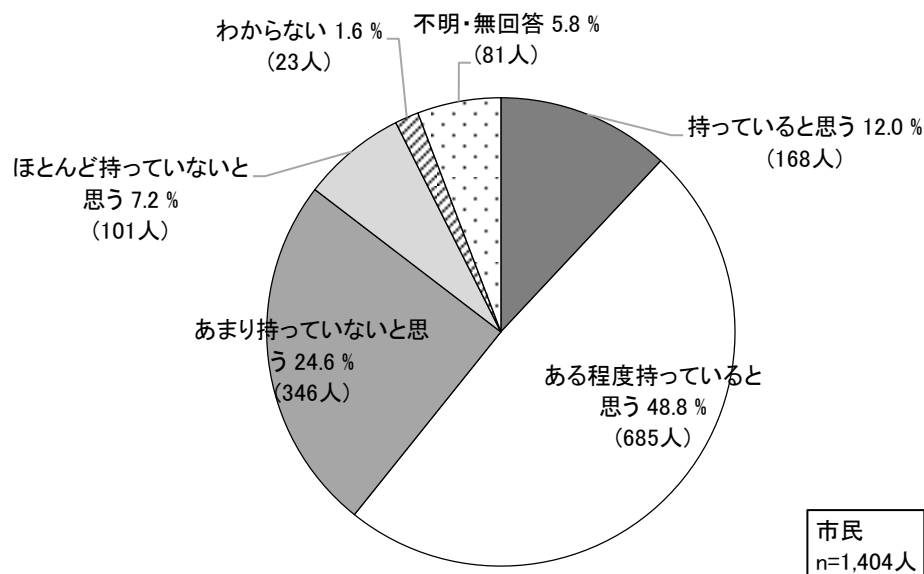
その他、農薬使用の実態や鳥インフルエンザに関する知識など

6割強が知識を持っていると回答

「持っていると思う」(12.0%)、「ある程度持っていると思う」(48.8%)と回答した人を合わせた、知識を持っている人の割合は6割強(60.8%)となっている。

一方、「あまり持っていないと思う」(24.6%)、「ほとんど持っていないと思う」(7.2%)と回答した人を合わせた割合は3割強(31.8%)となっている。

図4.3 食の安全に関する知識を持っている程度



【性別・年齢別】

「持っていると思う」「ある程度持っていると思う」を合わせた割合は、70歳以上（71.6%）で最も高く、7割を超えている。一方、「あまり持っていないと思う」「ほとんど持っていないと思う」を合わせた割合は、30歳代（48.1%）と40歳代（48.2%）で高くなっている。

性別では、各年代とも、女性の方が「持っていると思う」「ある程度持っていると思う」を合わせた割合が高くなっている。

図 4.3-2 食の安全に関する知識を持っている程度（年齢別・全体）

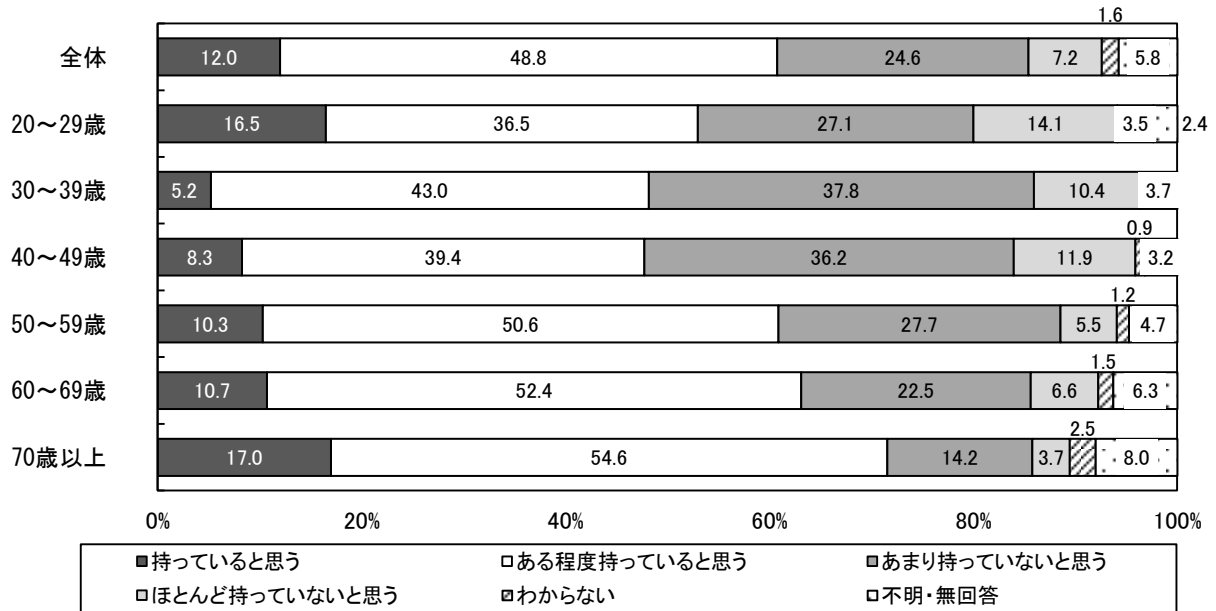
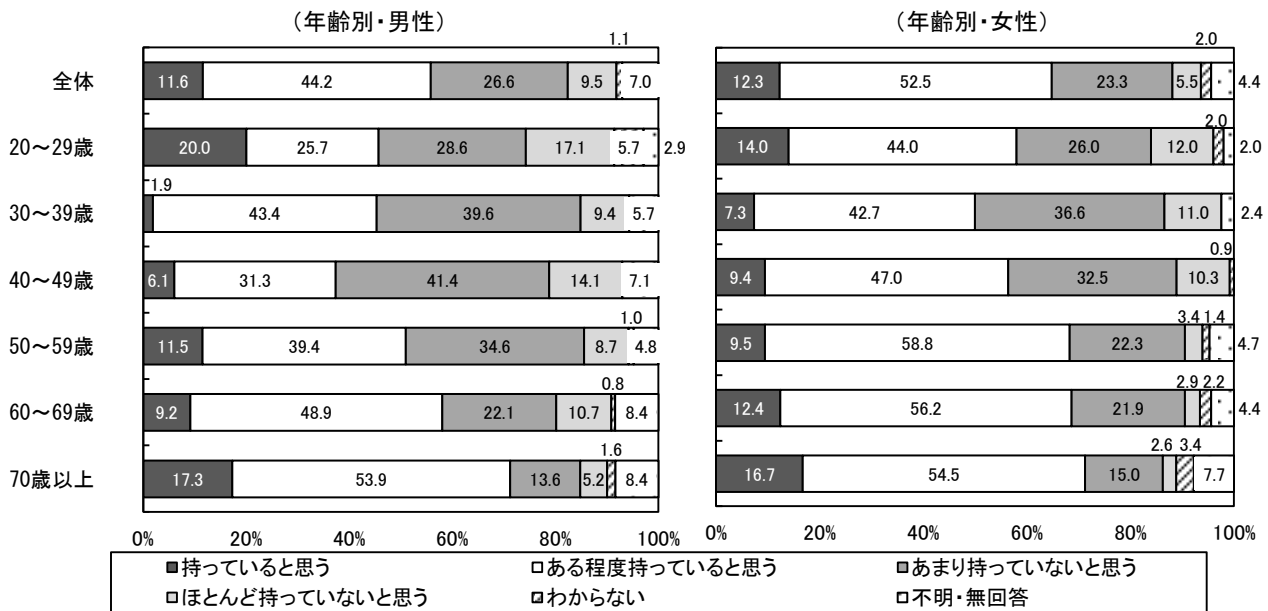


図 4.3-3 食の安全に関する知識を持っている程度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

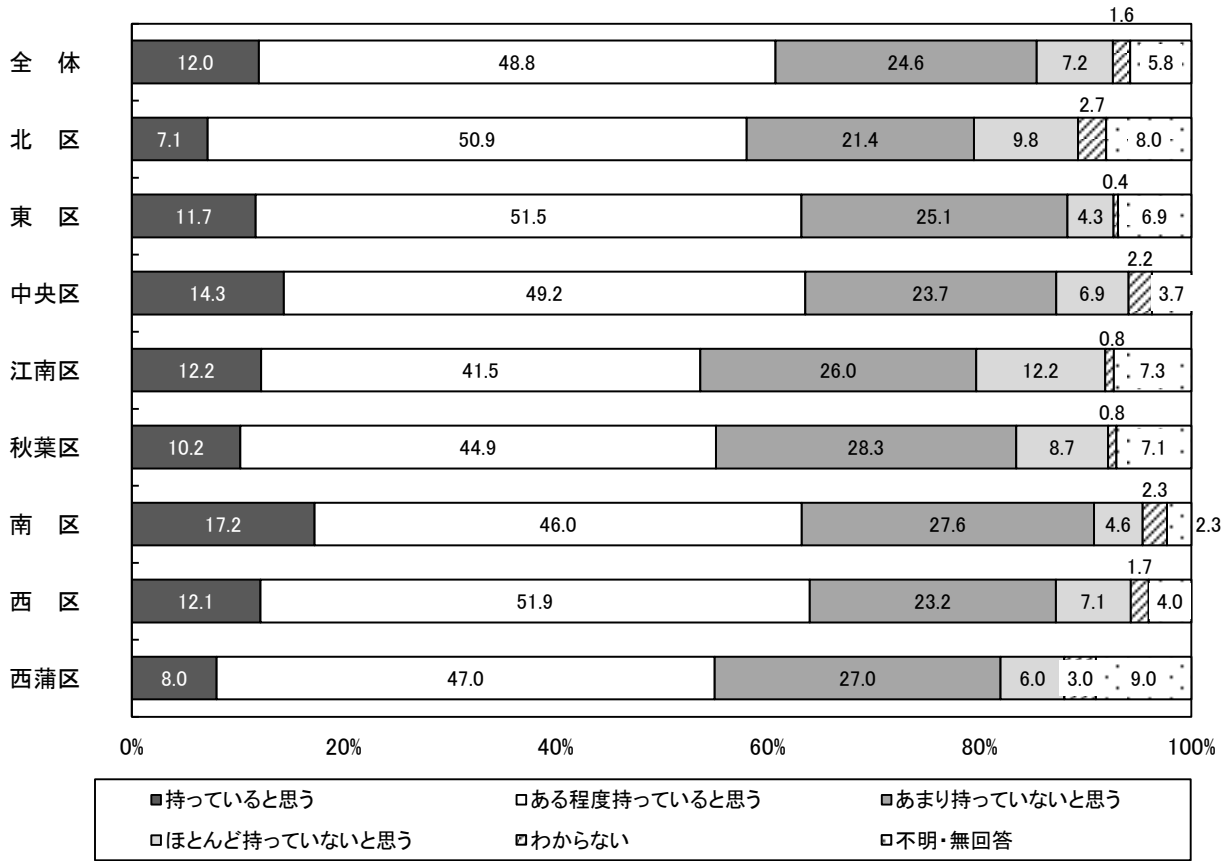
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「持っていると思う」「ある程度持っていると思う」を合わせた割合は、西区(64.0%)、中央区(63.6%)、東区、南区(いずれも63.2%)で高くなっている。

図 4.3-4 食の安全に関する知識を持っている程度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

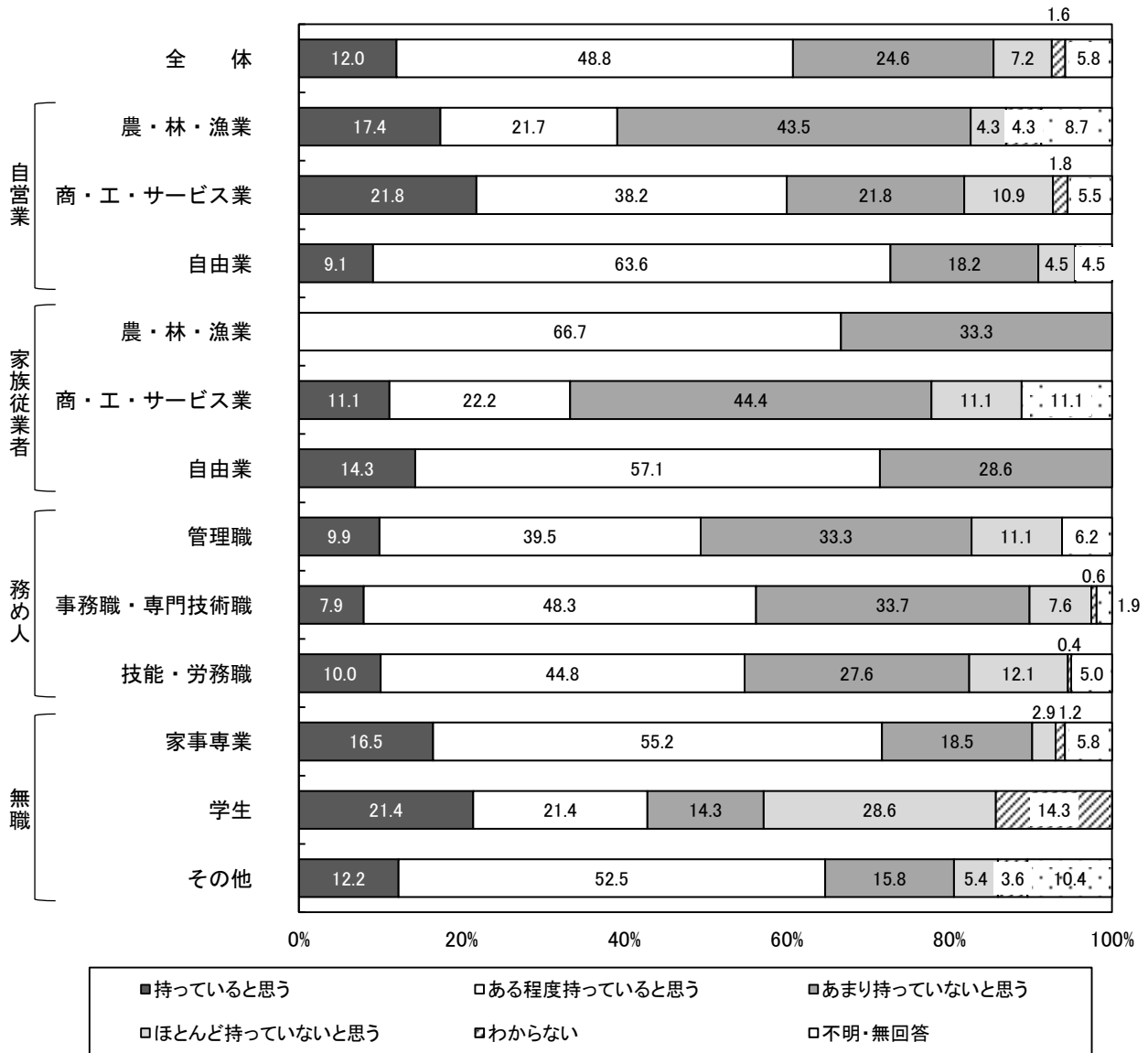
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 4.3-5 食の安全に関する知識を持っている程度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

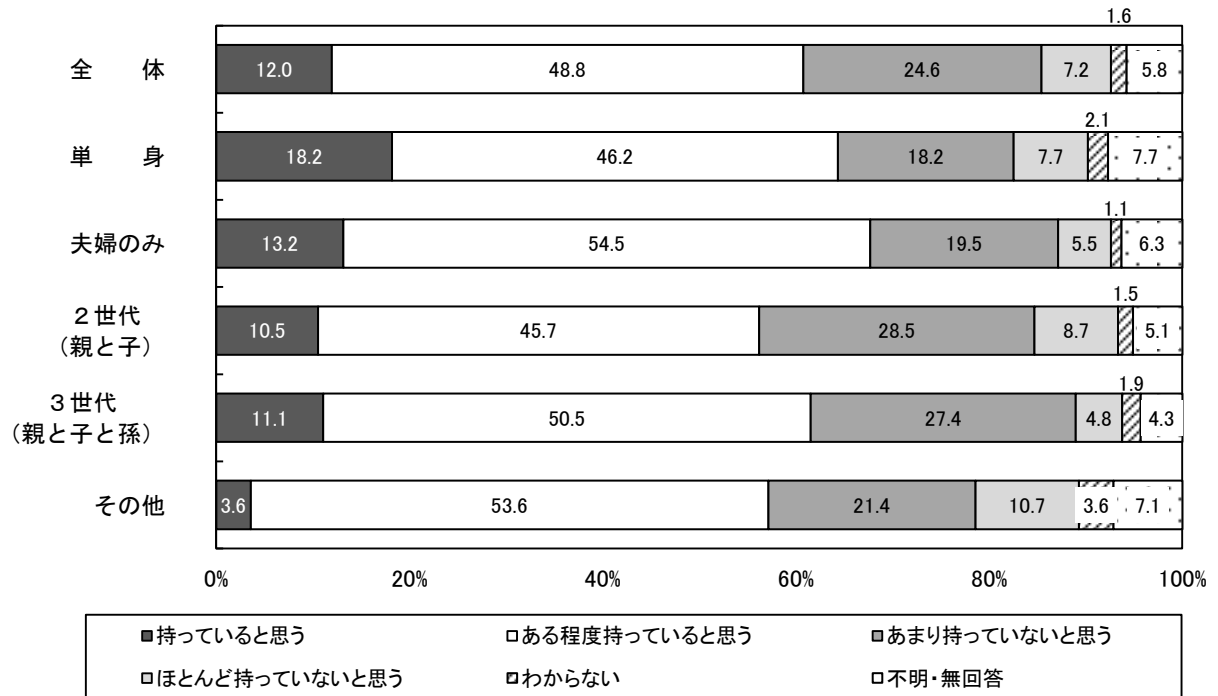
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「持っていると思う」「ある程度持っていると思う」を合わせた割合は、夫婦のみ（67.7%）で高くなっている。

図 4.3-6 食の安全に関する知識を持っている程度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(4) 安全な食生活を送ることについての判断の程度

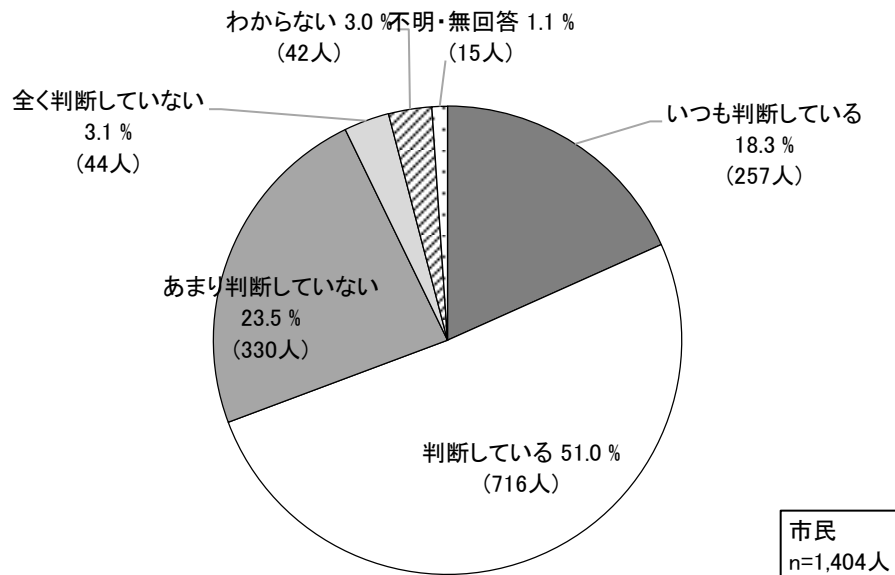
問25 あなたは、安全な食生活を送るために、自ら食品選択等の判断をしていますか。
(○は1つだけ)

7割弱が判断していると回答

「いつも判断している」(18.3%)、「判断している」(51.0%)と回答した人を合わせた、判断している人の割合は7割弱(69.3%)となっている。

一方、「あまり判断していない」(23.5%)、「全く判断していない」(3.1%)と回答した人を合わせた割合は3割弱(26.6%)となっている。

図4.4 安全な食生活を送ることについての判断の程度



【性別・年齢別】

「いつも判断している」「判断している」を合わせた割合は、50歳代(73.1%)で最も高く、7割強となっている。一方、「あまり判断していない」「全く判断していない」を合わせた割合は、20歳代(37.6%)で最も高く4割弱となっている。

性別では、「いつも判断している」「判断している」を合わせた割合は、各年代で女性の方が男性より高くなっている。

図 4.4-2 安全な食生活を送ることについての判断の程度（年齢別・全体）

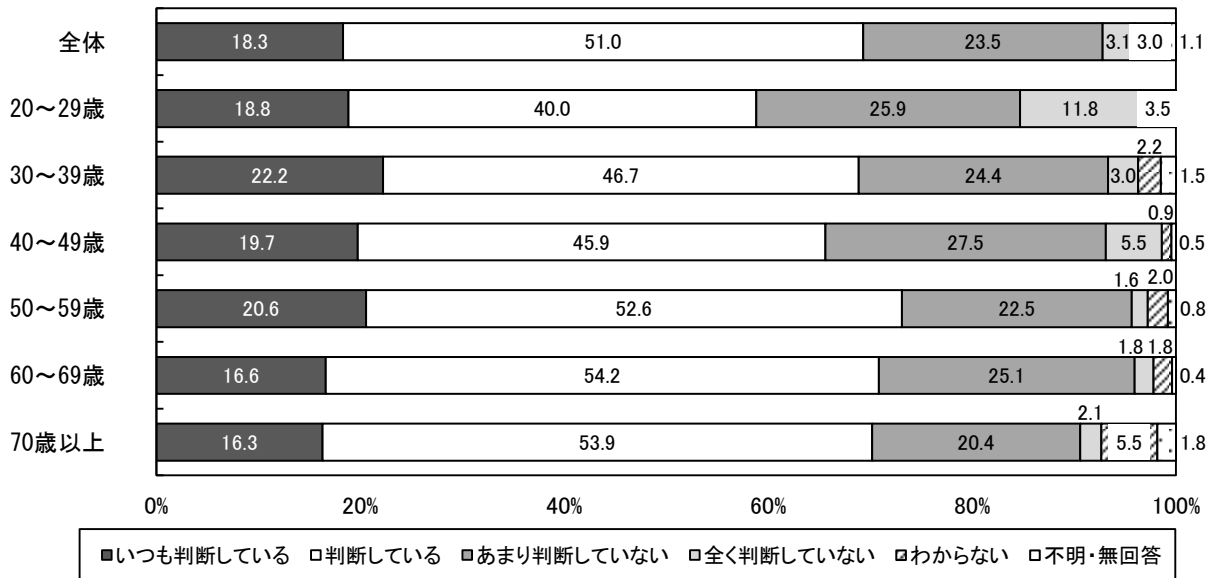
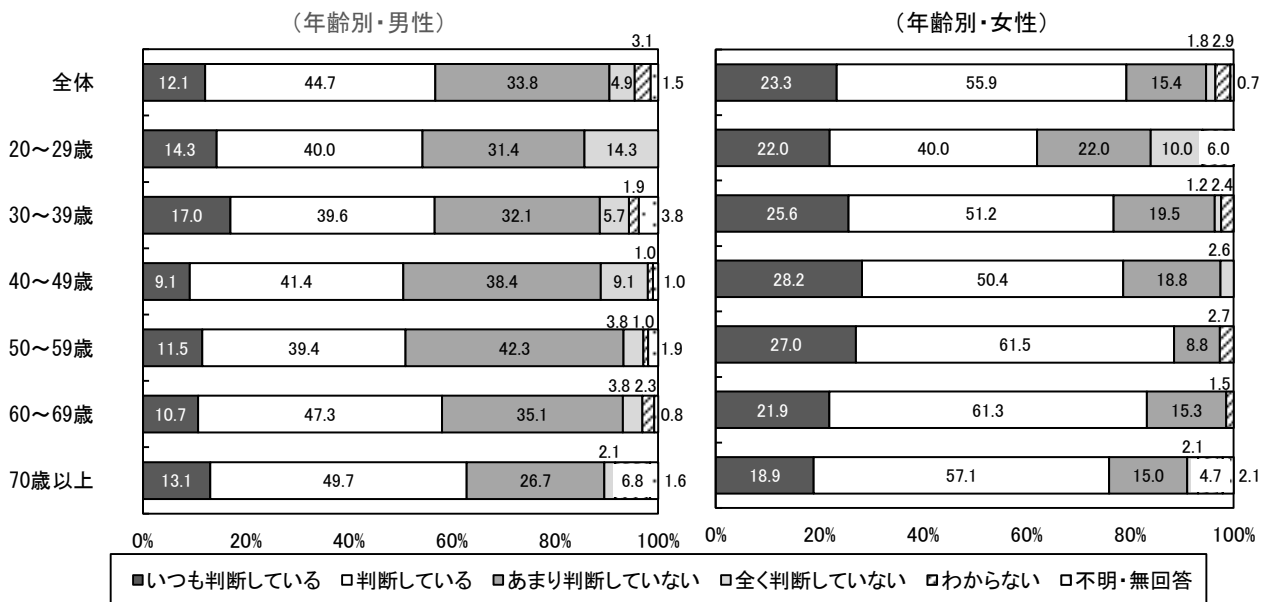


図 4.4-3 安全な食生活を送ることについての判断の程度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

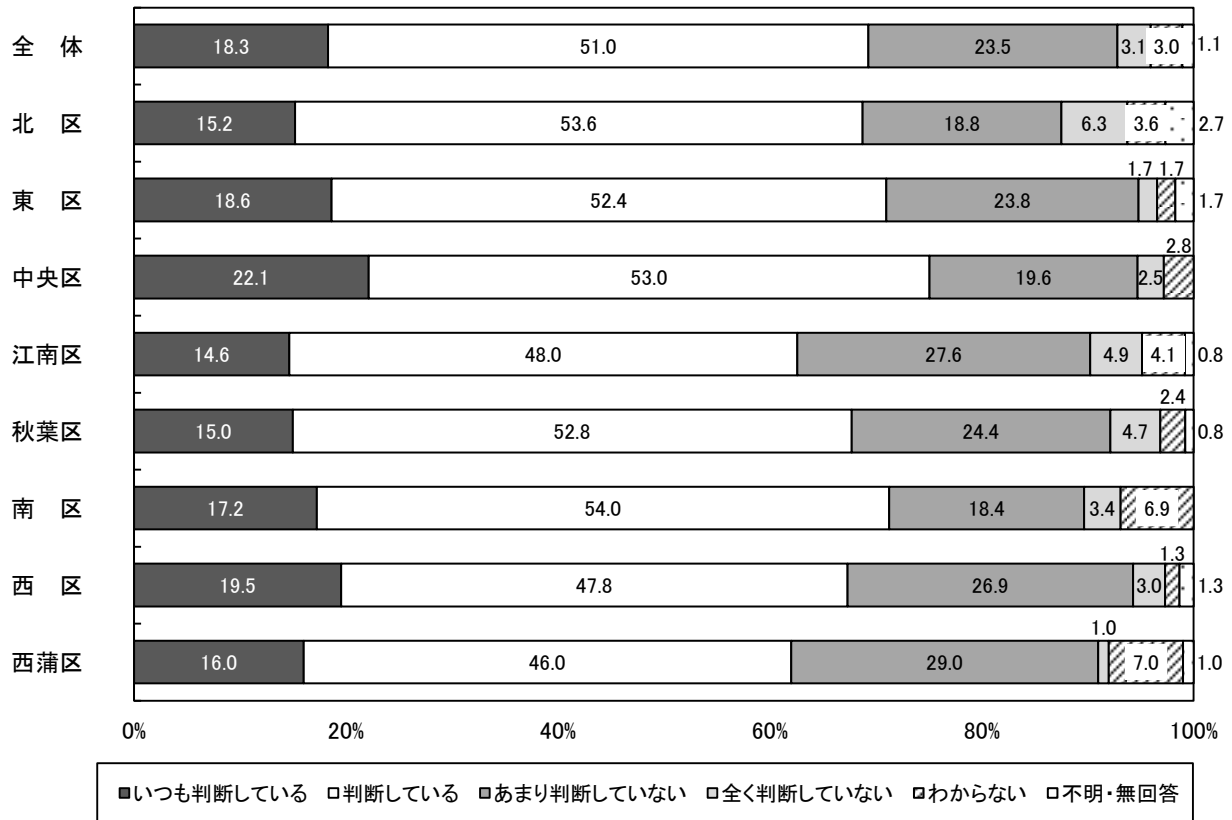
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「いつも判断している」「判断している」を合わせた割合は、中央区（75.1%）で最も高くなっている。

図 4.4-4 安全な食生活を送ることについての判断の程度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

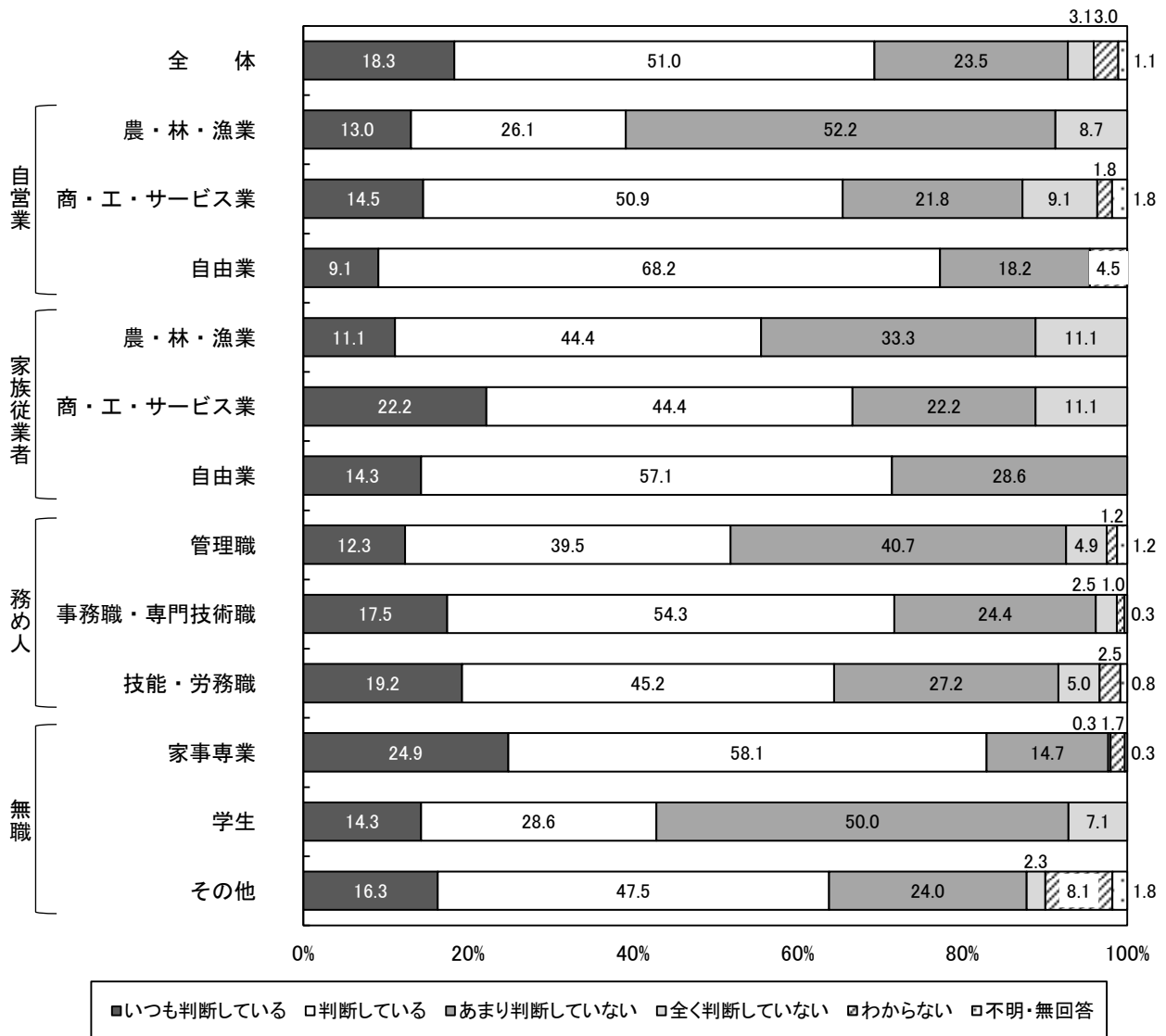
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 4.4-5 安全な食生活を送ることについての判断の程度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

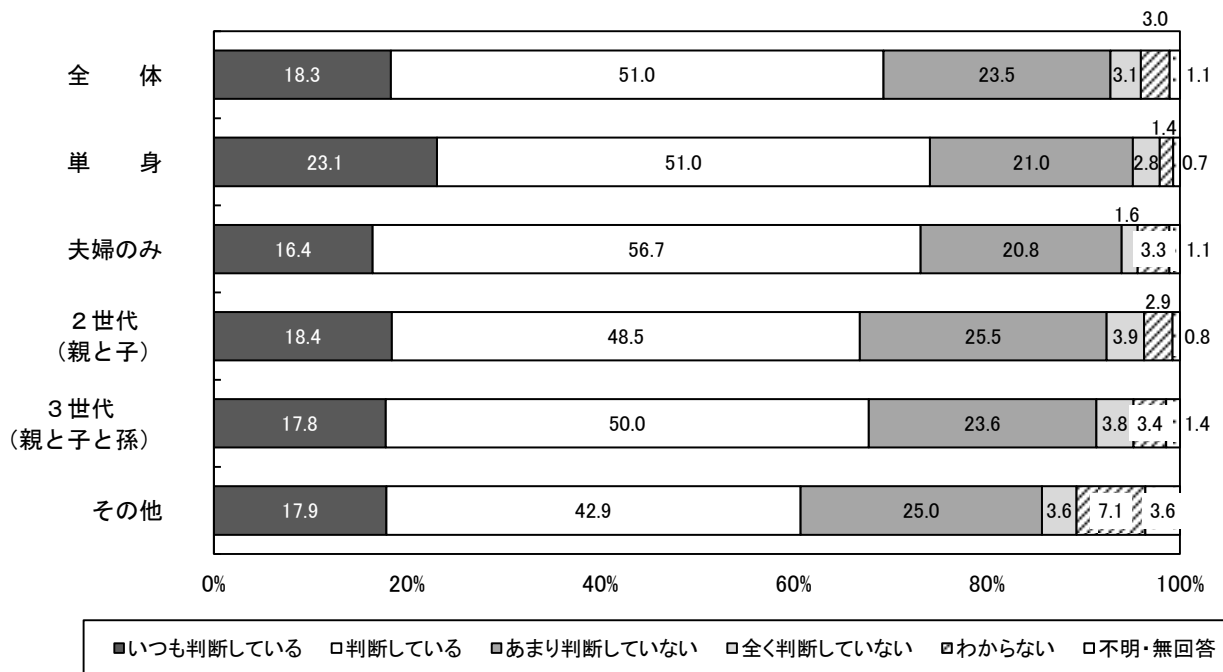
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「いつも判断している」「判断している」を合わせた割合は、単身（74.1%）で高くなっている。

図 4.4-6 安全な食生活を送ることについての判断の程度（家族構成別）



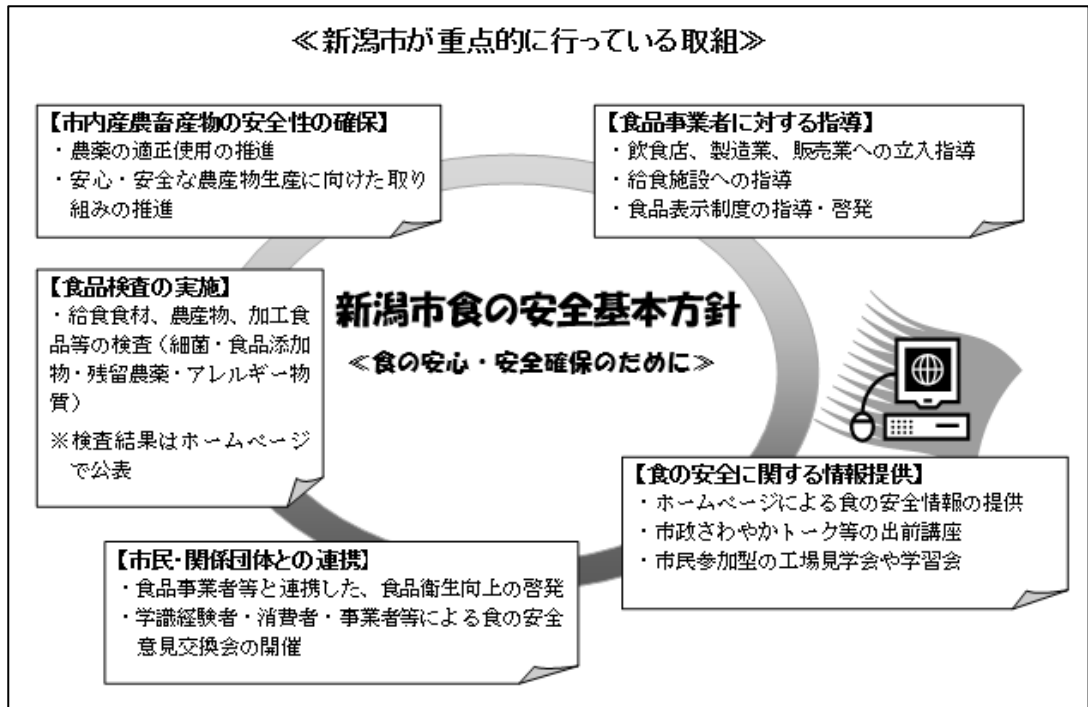
全 体	単 身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

(5) 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況

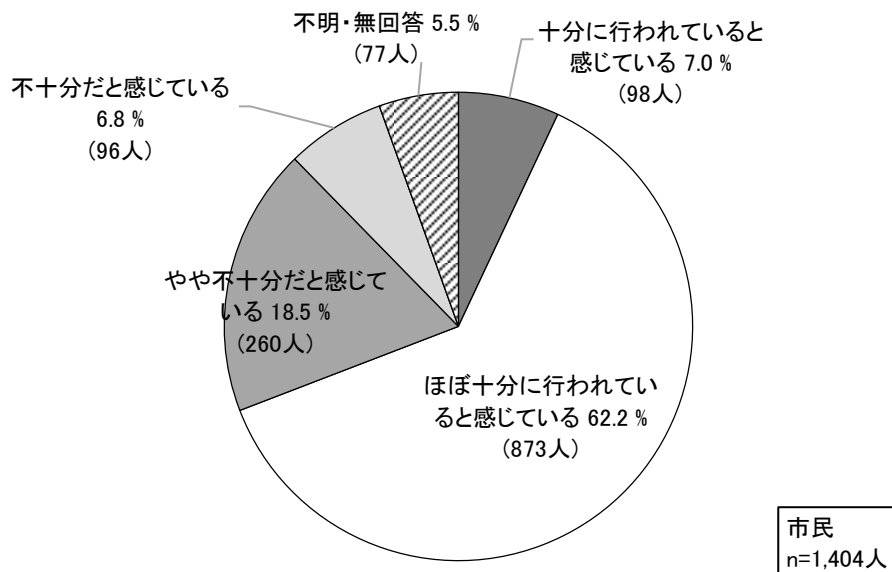
問26 新潟市では、「食の安全基本方針」に基づき、下記のような取組を重点的に行っているところです。あなたは、新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組が、十分に行われていると感じていますか。一番近いものをお選びください。(○は1つだけ)



7割弱が十分に、もしくはほぼ十分に行われていると感じていると回答

「十分に行われていると感じている」(7.0%)、「ほぼ十分に行われていると感じている」(62.2%)と回答した人を合わせた割合は7割弱(69.2%)となっている。「やや不十分だと感じている」(18.5%)、「不十分だと感じている」(6.8%)と回答した人を合わせた割合は3割弱(25.4%)となっている。

図 4.5 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況



【性別・年齢別】

「十分に行われていると感じている」「ほぼ十分に行われていると感じている」と回答した人の割合は、70歳代（73.6%）で最も高く、40歳代（62.4%）で最も低くなっている。「やや不十分だと感じている」「不十分だと感じている」と回答した人の割合は、40歳代（35.3%）で最も高くなっている。

性別では、「十分に行われていると感じている」「ほぼ十分に行われていると感じている」を合わせた割合は、各年代で女性の方が男性より高くなっている。

図 4.5-2 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況（年齢別・全体）

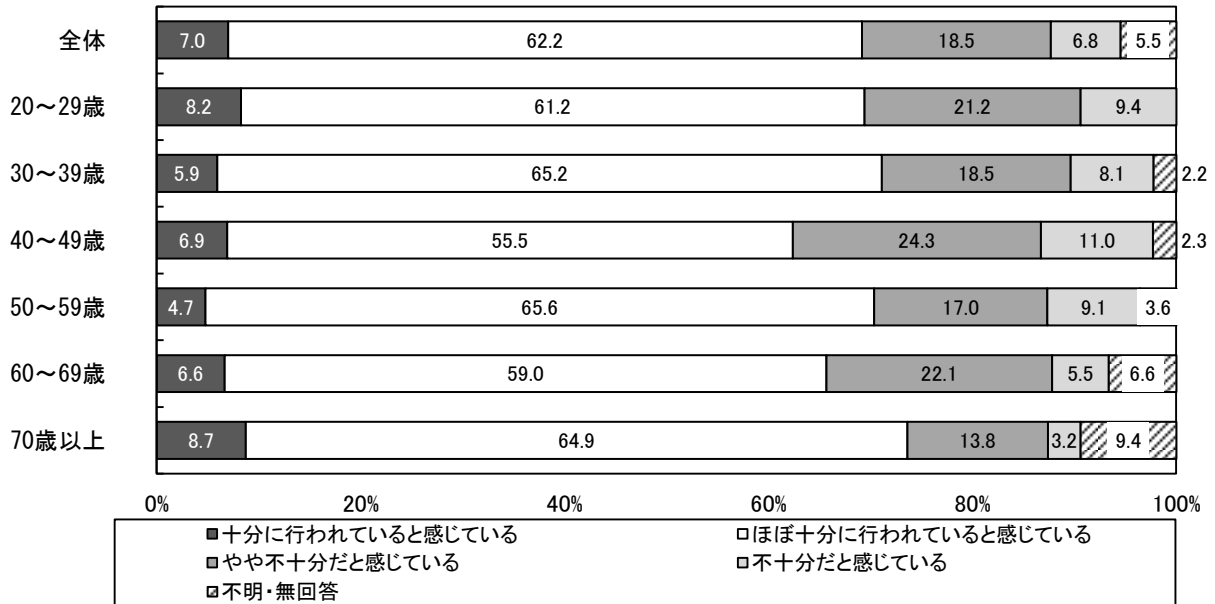
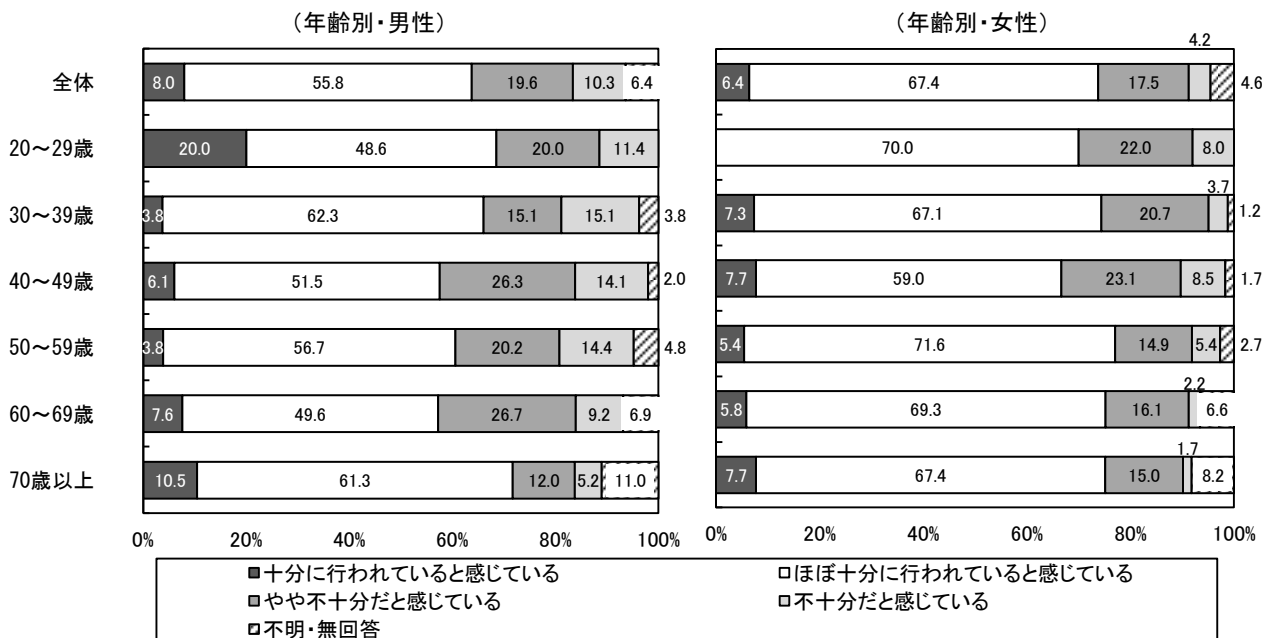


図 4.5-3 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,404	85	135	218	253	271	436	6
男性	613	35	53	99	104	131	191	0
女性	767	50	82	117	148	137	233	0

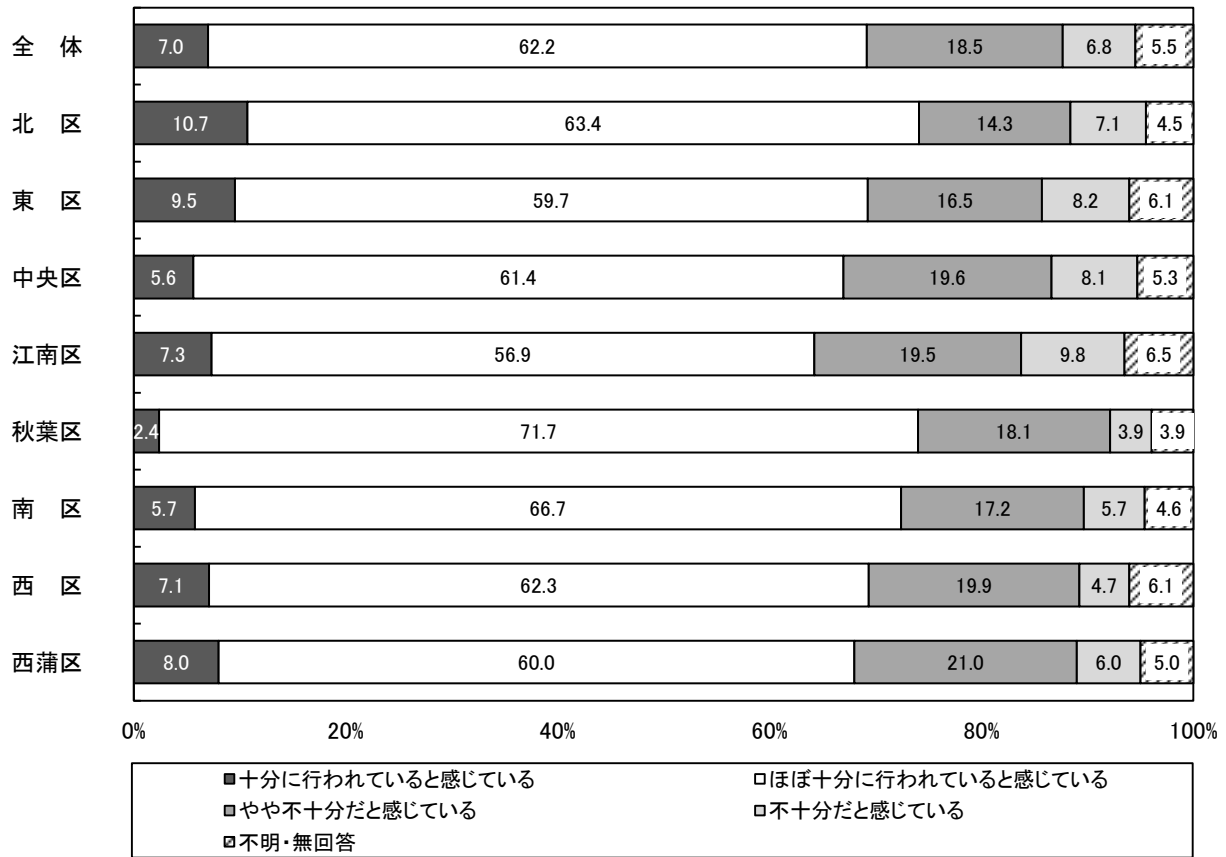
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「十分に行われていると感じている」「ほぼ十分に行われていると感じている」と回答した人を合わせた割合は、北区（74.1%）と秋葉区（74.0%）で高くなっている。

図 4.5-4 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,404	112	231	321	123	127	87	297	100	6

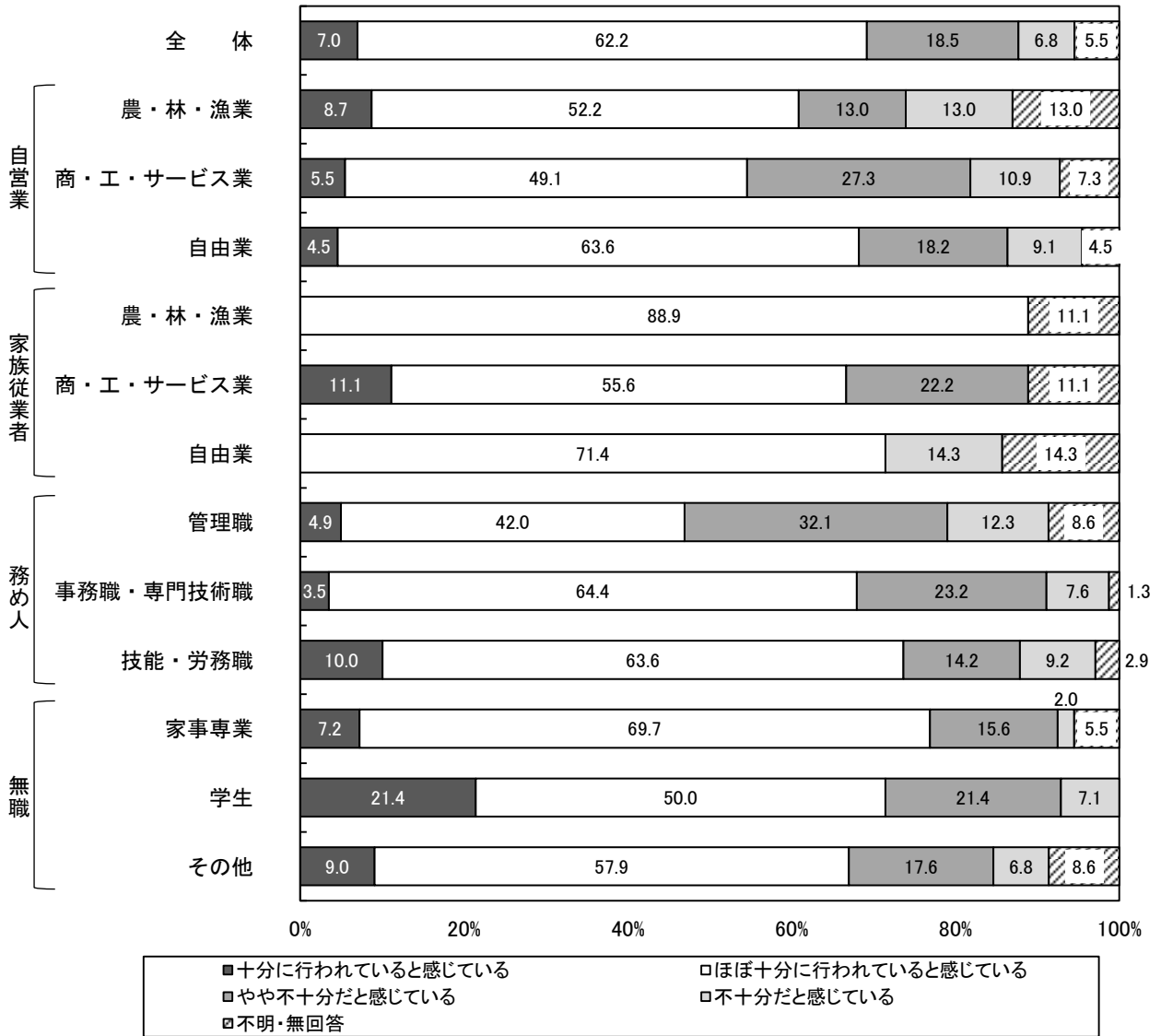
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 4.5-5 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,404	23	55	22	9	9	7

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
81	315	239	346	14	221	63

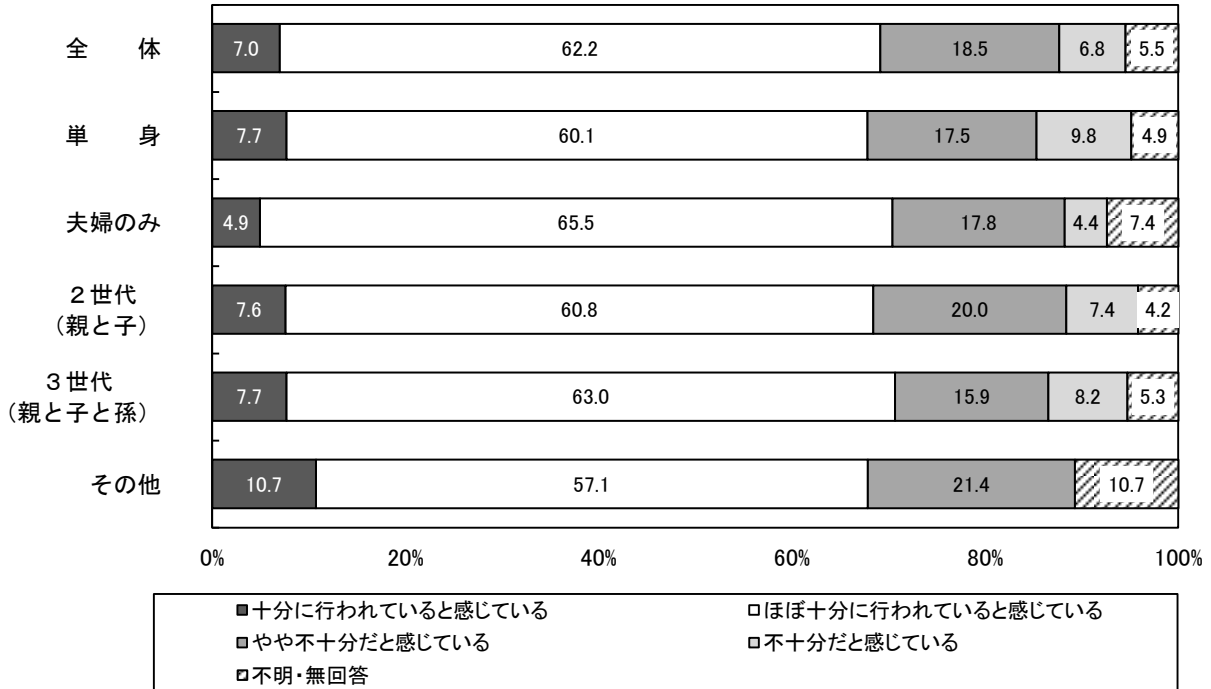
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「十分に行われていると感じている」「ほぼ十分に行われていると感じている」と回答した人を合わせた割合は、3世代（70.7%）で最も高く、単身（67.8%）で最も低くなっている。

図 4.5-6 新潟市における食の安心・安全の確保に対する取組状況（家族構成別）



全 体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,404	143	365	646	208	28	14

(人)

※無回答者のグラフは省略した。